



ペトリカメラ株式会社

本社・工場 東京都足立区梅島町 1
東京センター 東京都千代田区九段 2 - 5
大阪センター 大阪市南区鰻谷西之町 11 - 4
名古屋センター 名古屋市中区鶴重町 1 - 5
九州センター 福岡市片土居町 13 - 2
ペトリカメラ・コーポレーション・オブ・ヨーロッパ
ペトリカメラ・コーポレーション・オブ・オキナワ



PETRI

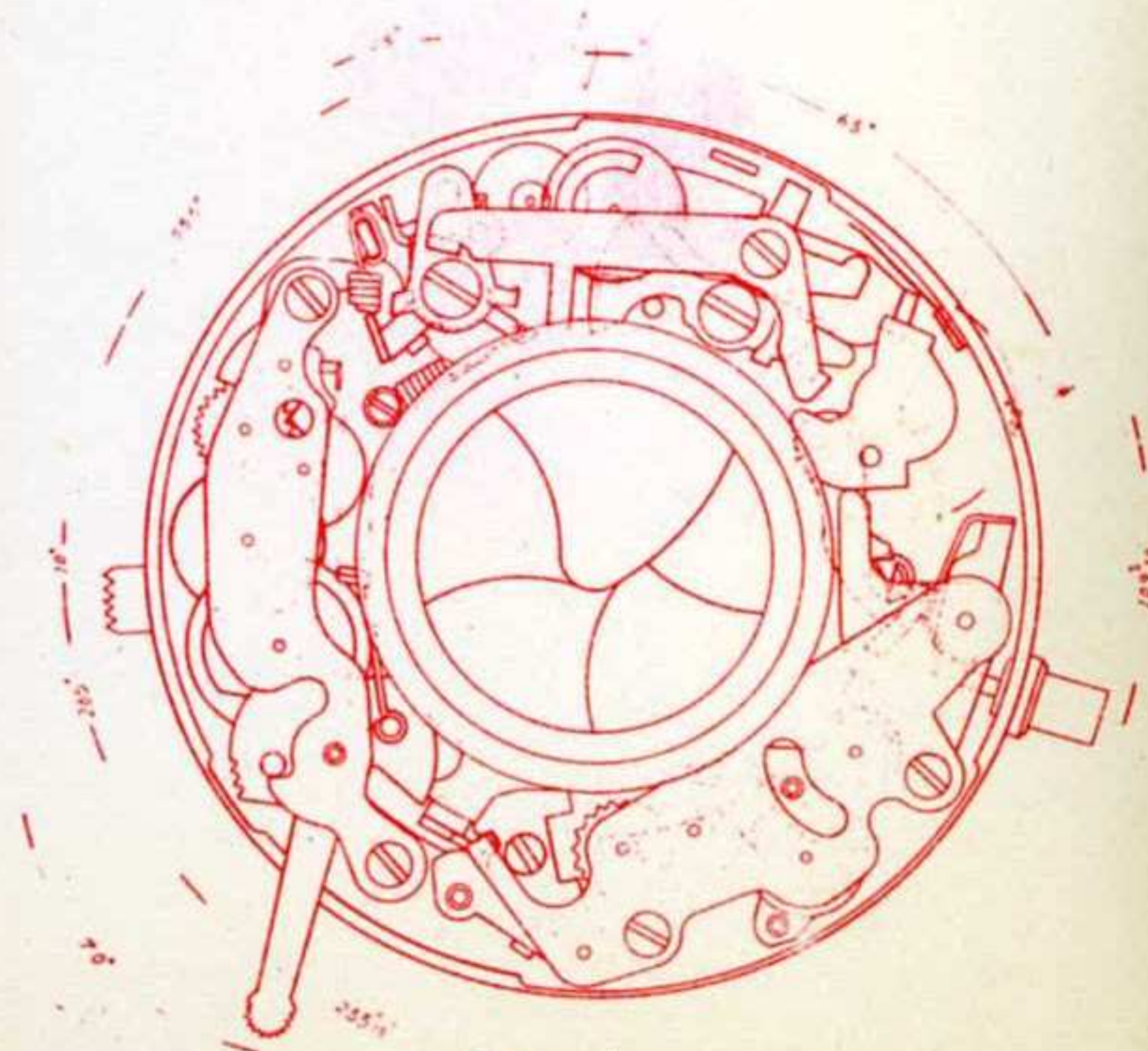
S

INSTRUCTION BOOK



主な性能

タイプ	連動露出計組込みの35mmカメラ
使用フィルム	パトローネ入り35mmフィルム
レンズ	ペトリ F1.8 45 mm アンバーコーティング
シャッター	MVEシャッター B・1・2・4・8・15・30・60・125・250・500 セルフタイマー、MXフルシンクロ内蔵
連動露出計	サークルアイ式完全連動露出計内蔵 視野内指針およびボデー上部指針によるゼロメソッド式
焦点調節	一眼二重像合致式距離計連動直進ヘリコイド式
ファインダー	採光窓式ゴールデン・ブライトフレーム・ファインダー
フィルム巻上	ボデー背部のレバーによる1作動巻上げ(120°)
その他	自動復元式フィルム枚数計 クランク式巻戻し 裏蓋開閉式



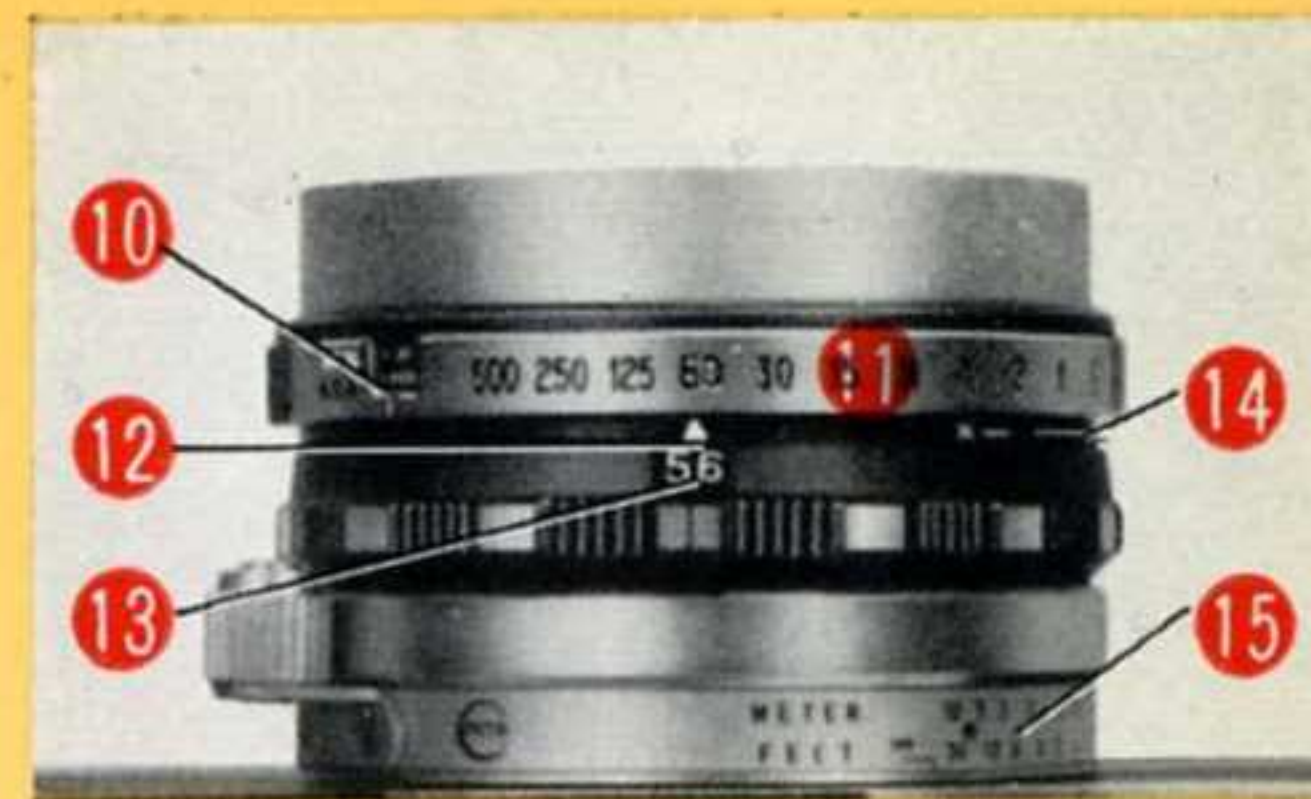
ペトリセブン Sをお買上げくださいますと有難うございました。

本機はご好評をいただいておりますペトリセブン 1.8に、ボデー上部の露出計指針を加えて一層使いよくし、内部機構の精度を更に向上させた、大口径レンズの完全連動35ミリカメラでございます。

この使用書をよくお読みいただき、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。

- もくじ
- 主な性能・2
 - 各部の名称・4
 - フィルムの入れ方・6
 - 連動露出計の使い方・9
 - 連動露出計の正しい測り方・13
 - ピントの合わせ方・14
 - 構え方・14
 - ファインダーののぞき方・15
 - シンクロフラッシュ撮影・16
 - セルフタイマーの使い方・17
 - 被写界深度について・18
 - フィルムの出し方・20
 - アクセサリー・22

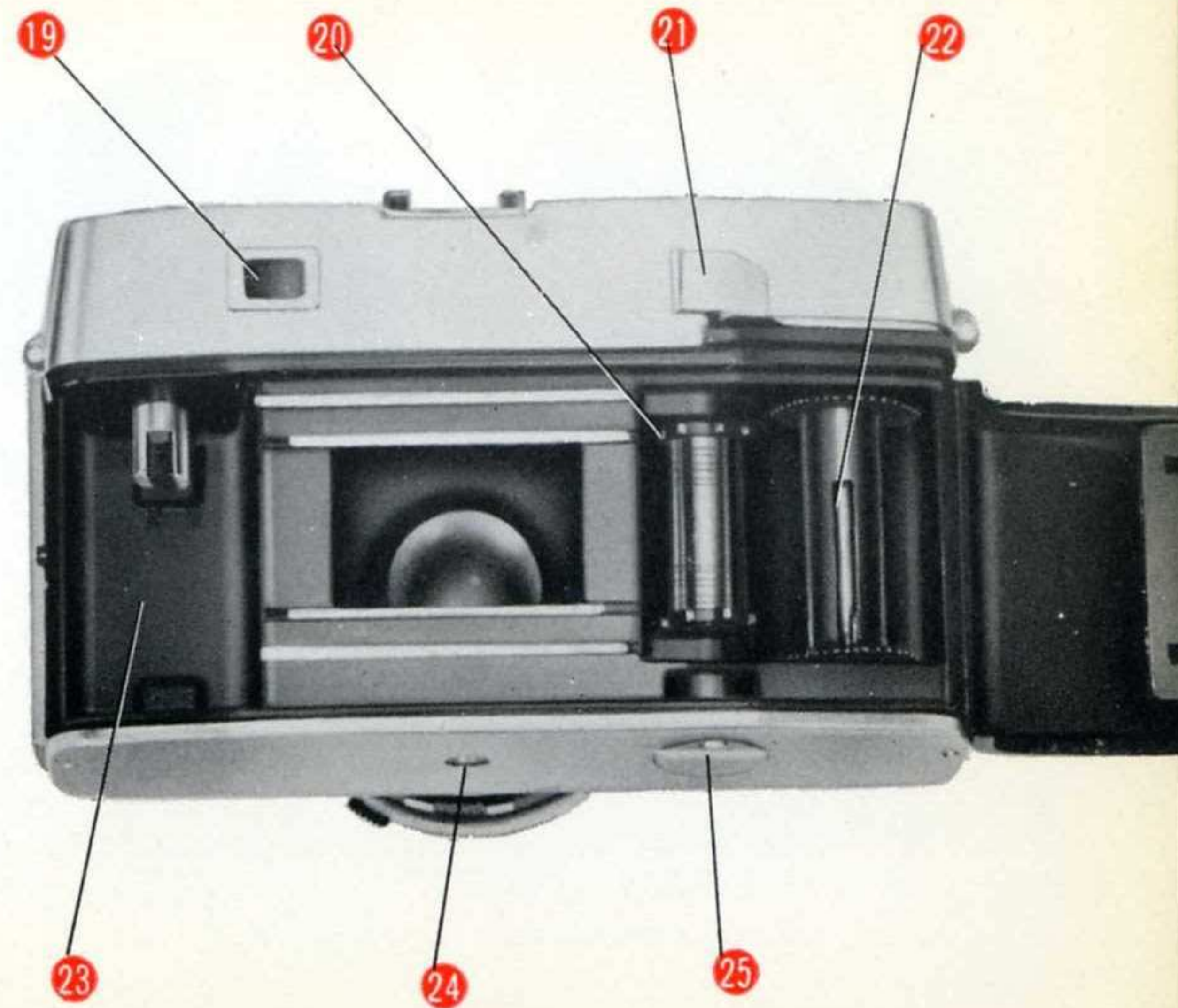
各部の名称

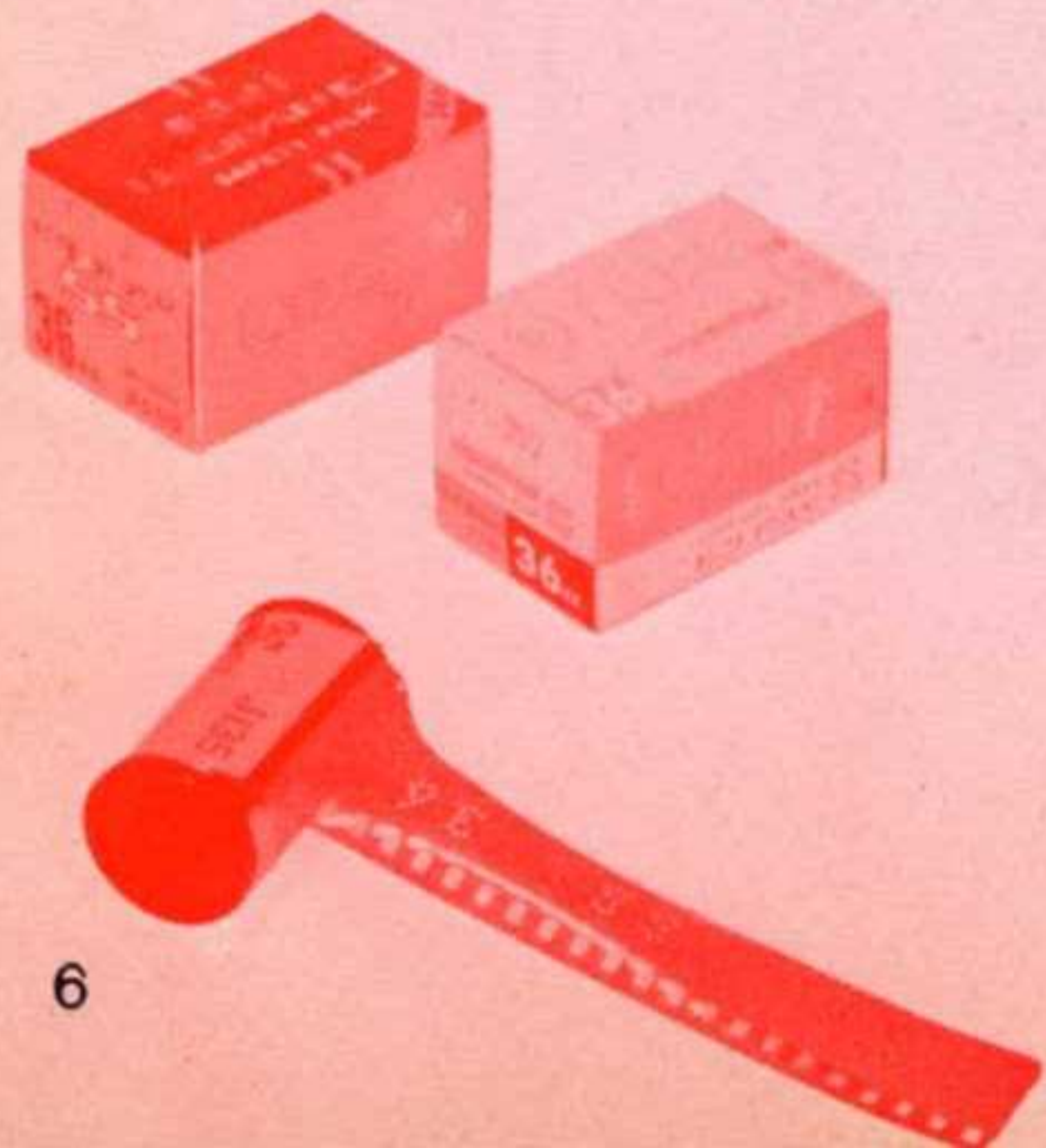


- ①フィルム枚数計
- ②シャッターボタン
- ③露出計指針
- ④アクセサリシュー
- ⑤ファインダー窓
- ⑥フィルム巻戻しクランク
- ⑦吊環
- ⑧サークルアイ露出計受光部
- ⑨フォーカシングレバー
- ⑩フィルム感度表示窓
- ⑪シャッター速度目盛
- ⑫絞り・シャッター指標



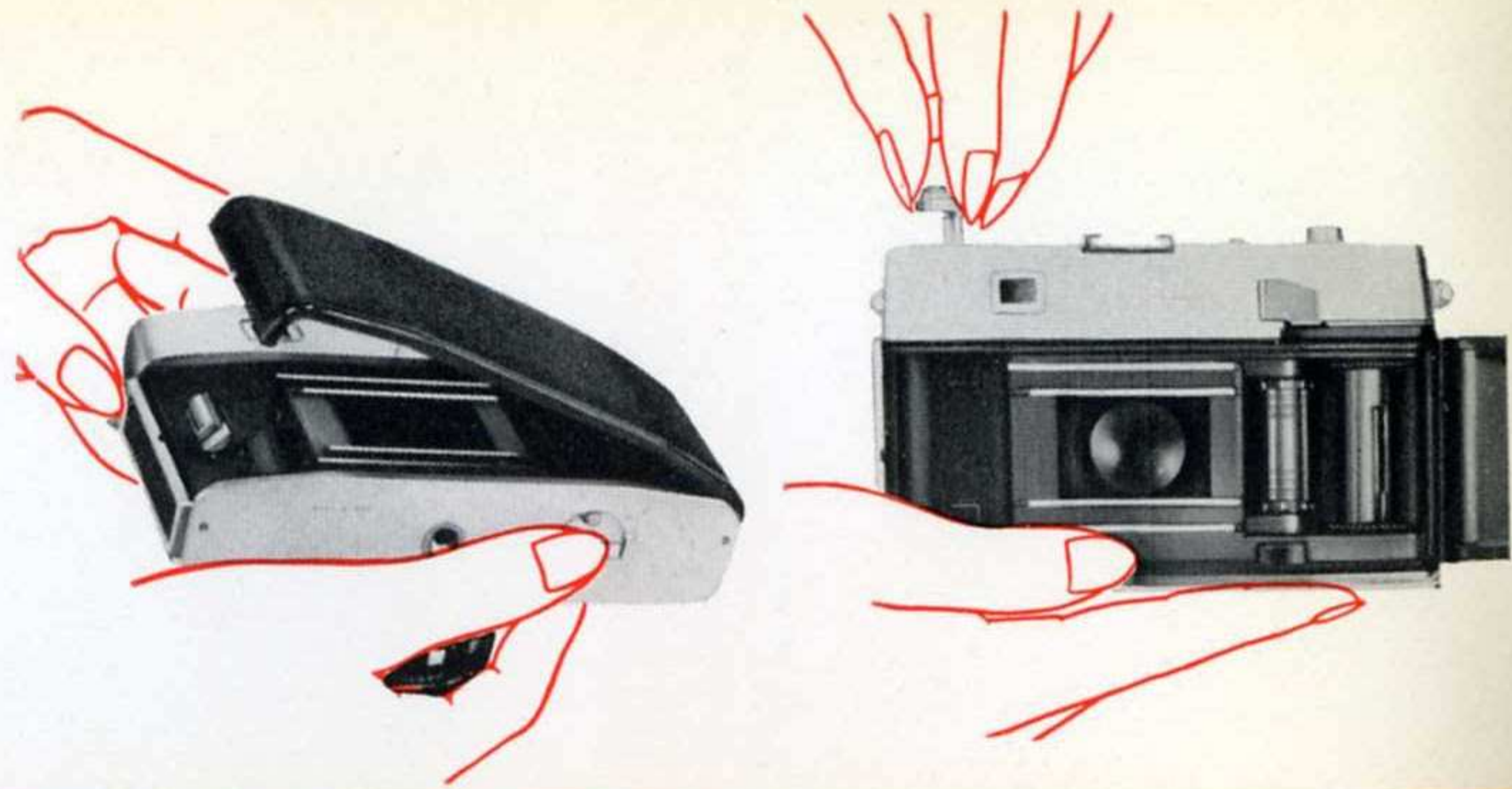
- ⑬絞り目盛
- ⑭MX接点切替レバー
- ⑮距離目盛
- ⑯セルフタイマーレバー
- ⑰フィルム感度表示レバー
- ⑱シンクローターミナル
- ⑲アイピース
- ⑳プロケット
- ㉑フィルム巻上げレバー
- ㉒フィルム巻取りスプール
- ㉓パトローネボックス
- ㉔三脚穴
- ㉕リターンボタン





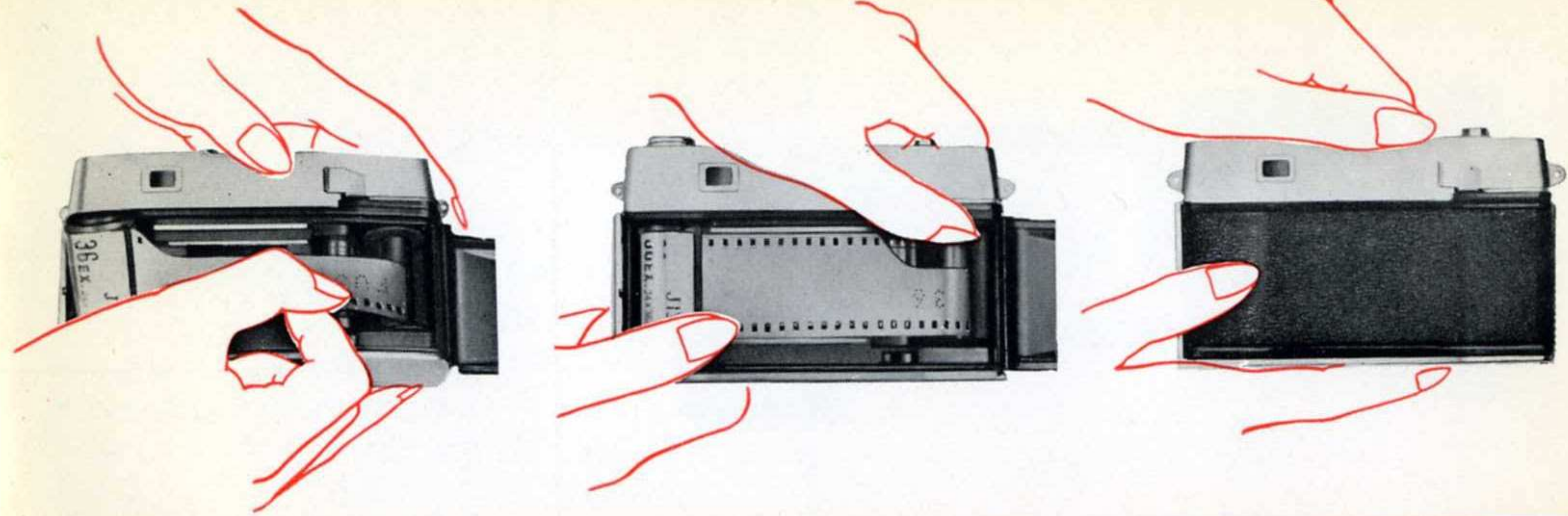
裏蓋をあける

カメラ側面の裏蓋開閉レバーに爪をかけて引くと、裏蓋がスプリングの力で開きます。(フィルムはパトローネ入りの35ミリフィルムを使います。)



巻戻しクランクを引き出す

巻戻しクランクをつまんで、止まるところまで引き出します。これでパトローネボックスにフィルムをおさめることができるわけです。



フィルムの先端をスプールの溝にさしこむ

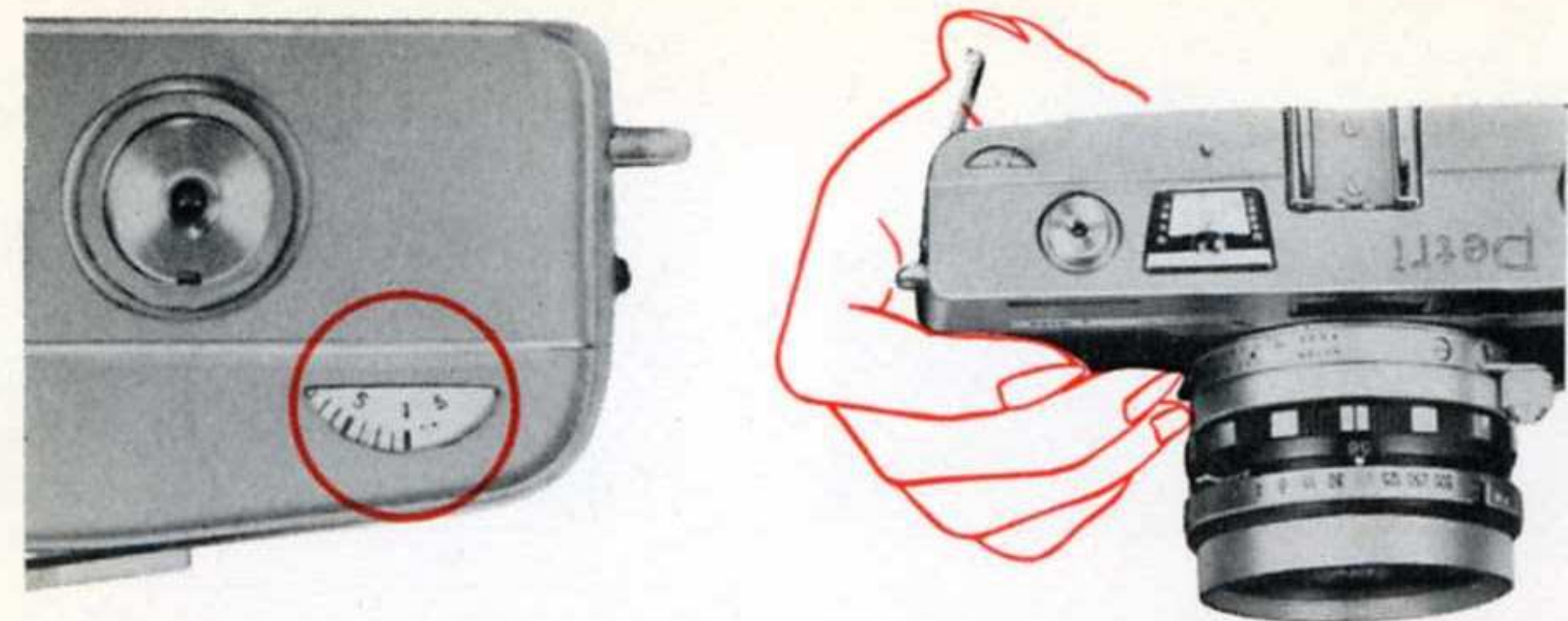
フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこみ、パーフォレーション(フィルムの爪孔)を、溝の突起にひっかけます。

フィルムを少し巻取る

フィルムをパトローネボックスに納めた後、巻取りスプールのつばに指をかけて回し、フィルムを少し巻取ってみます。パーフォレーションをスプロケットの歯に完全にかみ合わせてください。

裏蓋を閉める

巻戻しクランクを元に戻し、フィルムが正しく装てんされているか十分に確認した上で裏蓋を閉めます。裏蓋はとじて押せばパチンと自動的に閉まります。



フィルム枚数計には手をふれる必要がない

フィルムの撮影枚数を知るための枚数計は、自動的にS印(-3)の位置に合っていますから、No. 1に合うまでフィルムを巻上げなければなりません。

空写しを2回行う

フィルム巻上げレバーを巻いてシャッターを切る操作を2回くり返し、撮影直前に3回目の巻上げをします。あとはシャッターを切るだけで第1回目の撮影ができます。

フィルム装てん上のご注意

- ペトリセブンSは20枚撮りまたは36枚撮りのパトローネ入り35ミリフィルムを使用します。
 - フィルムの装てんは直射日光下をさけてください。必ず日陰をえらんで行いましょう。
 - 裏蓋を閉じてレバーを巻上げる際、巻戻しクランクが逆の方向に回っていれば、フィルムが正しく巻上げられていると判断されます。巻上げがかたかったり、巻戻しクランクが逆方向に回らないときは、装てんのやり直しをしてください。
- フィルムの巻上げ ボデー背部のレバーに親指をかけて止まる所まで完全に巻くと、フィルムが1コマ分巻上げられ、シャッターがセットされます。レバーは指を離すと元に戻ります。

連動露出計の使い方

高性能光電池を用いたサークルアイ機構の反射光式電気露出計は、フィルム感度・シャッター速度・絞りの三要素に完全連動します。その性能は次の通りです。

ASA露出指数系列

10, ·(16), 25, ·(32), 50, 100, 200

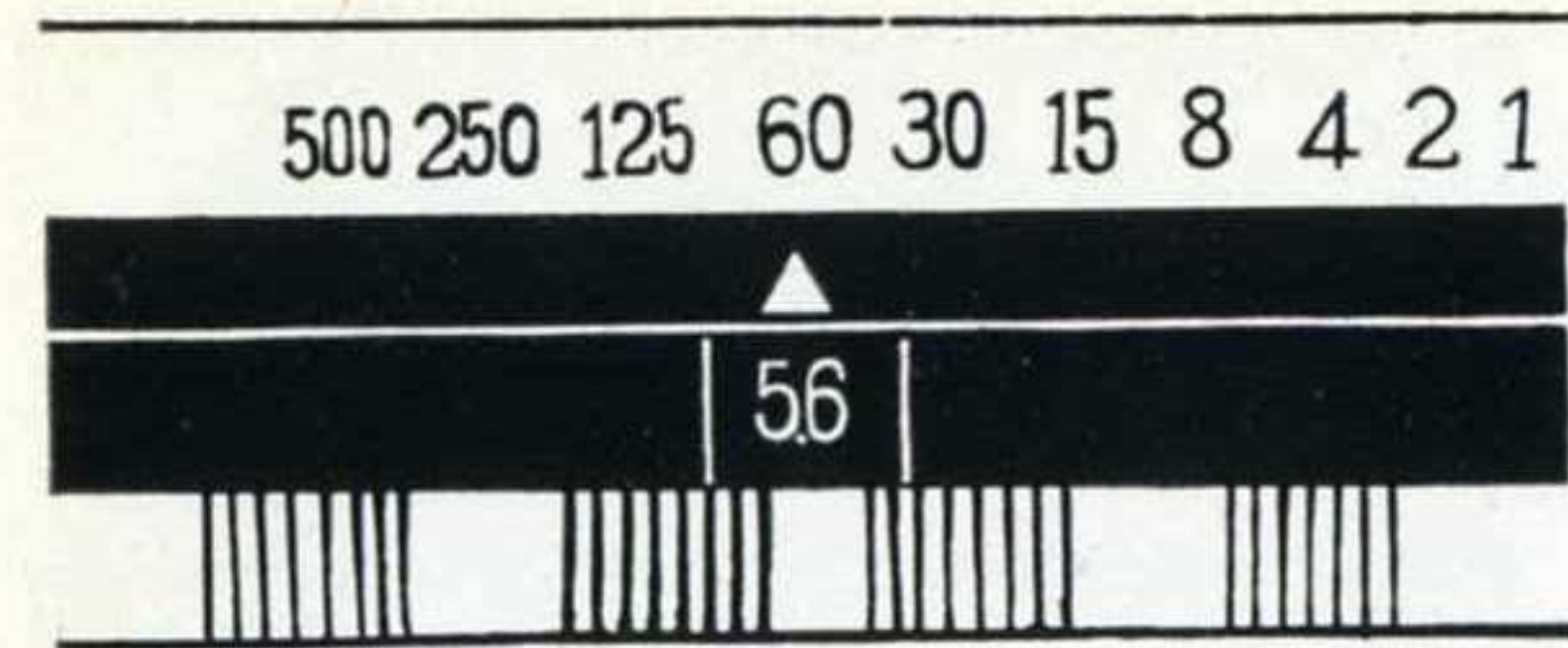
連動範囲 (ASA100のフィルム使用の時)

L. V. (ライトバリュー) 7 ~ L. V. 17

つまり低感度のフィルムでも、最高感度のフィルムでも使用できるわけですし、また、ASA 100のフィルムを使用した場合L. V. 7つまりF1.8・ $\frac{1}{30}$ 秒が適正な極端に暗い被写体から、L. V. 17つまりF16・ $\frac{1}{500}$ 秒が適正な極端に明るい被写体まで、すべて露出計が連動することを意味します。

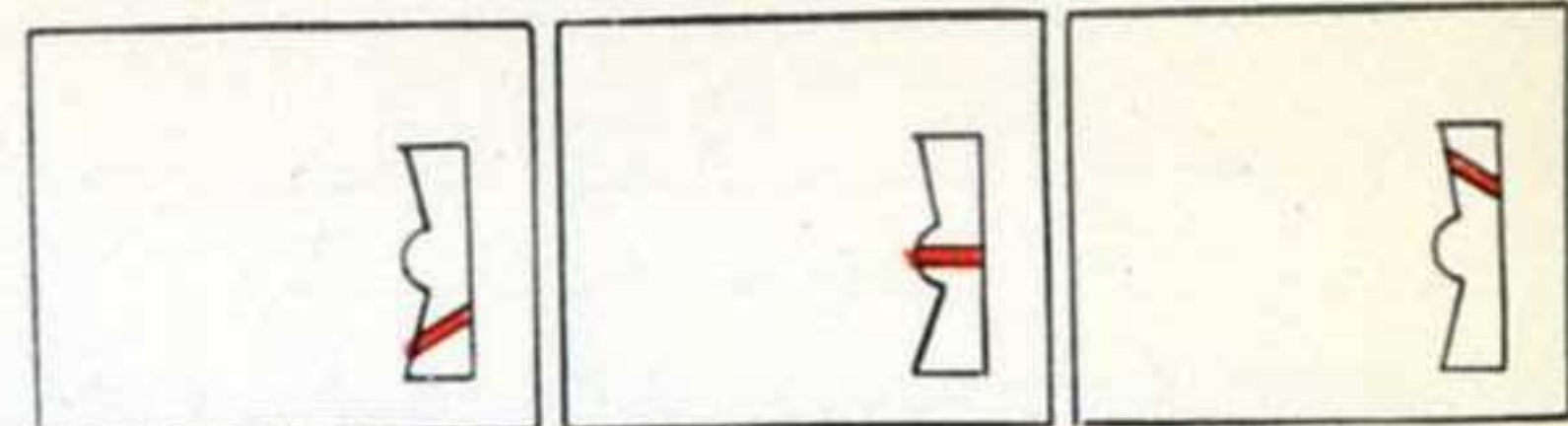


フィルム感度表示レバーに爪をかけて動かし、使用フィルムのASA露光指数(例えばSSフィルムなら100)をフィルム感度表示窓に出しておきます。この操作はフィルムを装てんしたとき、一度合わせるだけでよいのです。

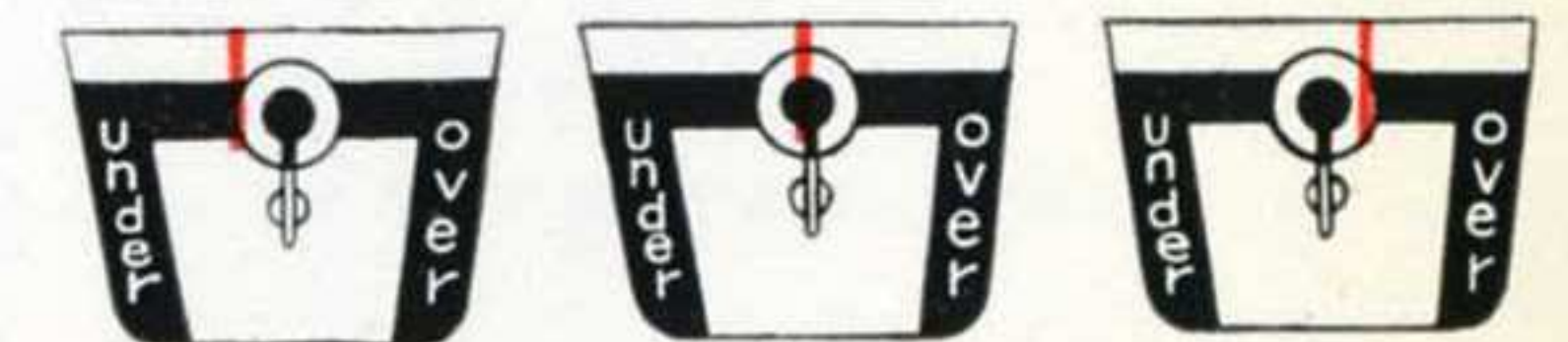


2 被写体の明るさに応じて、例えば戸外なら $\frac{1}{250}$ 秒、室内なら $\frac{1}{30}$ 秒というように、明るいときは速いシャッター、暗いときは遅いシャッターを適当にえらび、シャッター速度リングを回して希望の速度にセットします。

ファインダー視野内指針



露出不足 適正露出 露出過度



ボデー上部指針

3 被写体に向けてカメラを構え、ファインダーをのぞきながら絞りリングを回し、視野内に見える指針を指標に合わせます。あるいはカメラ上部の露出計指針を指標に合わせても同じです。これでもう適正絞りにセットされています。

操作上のご注意

- 暗い所で高速シャッターを使ったり、明るい所で低速シャッターを使うと、絞りだけでは調節しきれない場合があります。このときはシャッター速度を変えてください。
- 露出計受光部がサークルアイになっていますから、フィルターご使用時にも露出倍数を考慮する必要がありません。
- 極端に暗くて露出計が連動範囲外になるときは、普通のカメラとして、絞りと速度をセットしてご使用ください。
- 極端に明るくて露出計が連動範囲外になるときは、ND X 4 フィルターをご使用ください。(フィルターの項参照)



露出計連動範囲一覧表 (ASA 100のとき)

F No. / L. V.	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
7	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1	
8	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1
9	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$
10	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$
11	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$
12		$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$
13			$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$
14				$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$
15					$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$
16						$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$
17							$\frac{1}{500}$



連動露出計の正しい測り方

ペトリセブンSの連動露出計は、ファインダー視野内の指針でも、ボデー上部の指針でも測れますが、そのどちらで合わせるかは、被写体の種類に応じて使い分けると便利です。

■風景撮影の場合

撮影位置でそのまま測ればよいのですから、ファインダーをのぞきながら視野内指針を指標に合わせます。

ただし、空の多い風景ではカメラをやや下向きにして、地上に露出を合わせてください。

また山頂のように展開された広い風景では、測定値より更に一絞り小さく絞った方がよい結

果を得られます。

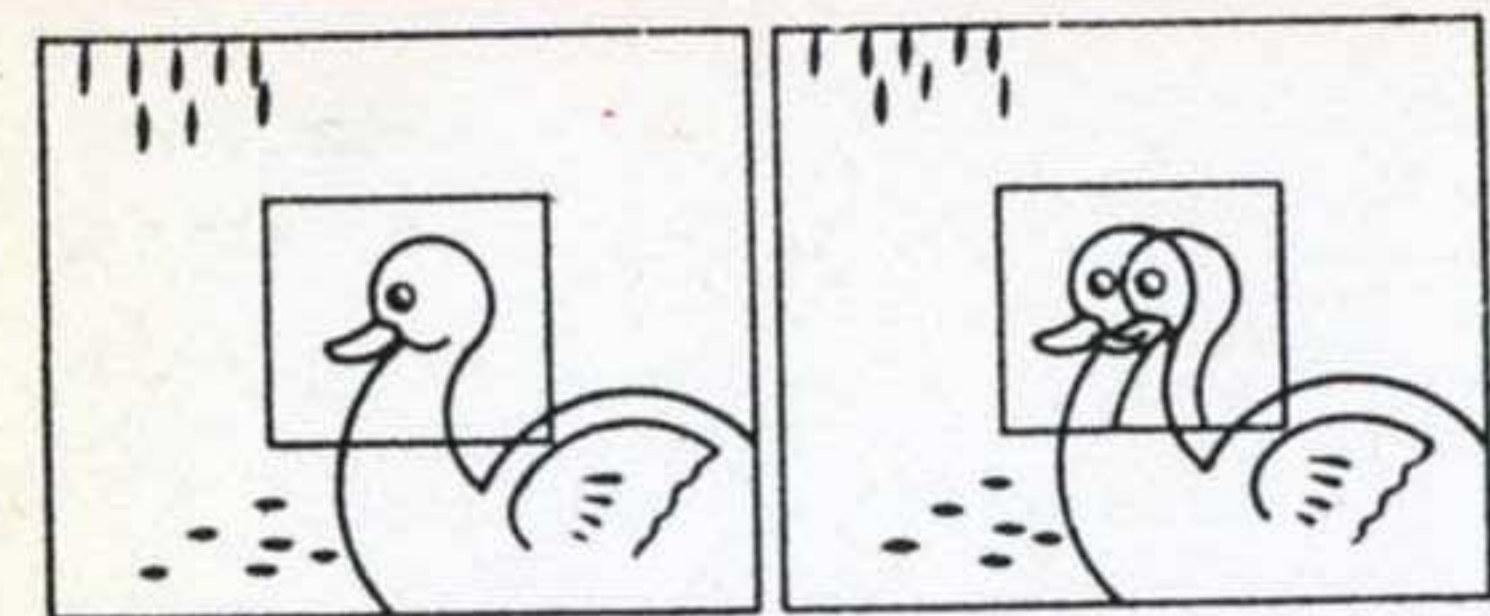
■人物撮影の場合

撮影位置よりもっと人物に近づき、空などのバックからの光が入らないようにして測ると一層正確な露出が得られます。この場合はカメラ上部の指針によって測る方がずっと便利です。

ただし、あまり近づきすぎてカメラの影や自分の影を測らないように注意しましょう。

また、人物に限らずコントラストの強い被写体は、明部と暗部を別々に測り、その平均値で撮影するのがよいのですが、この場合も上部指針で測れば絞り目盛をすばやく読みとれます。

ピントの合わせ方



ピントの合ったとき ピントの合わないとき

露出計で適正絞りが得られたら、次はピントの調節です。ファインダーをのぞきながらフォーカシングレバーを動かしますと、視野の中央に見える二重像の一方が動きます。この二重像を完全に合致させればピントが合ったこととなります。

■実際に写る範囲は視野内のブライツフレーム（明るく光る枠）で区切られて見えますからこれによって構図をきめます。

構え方

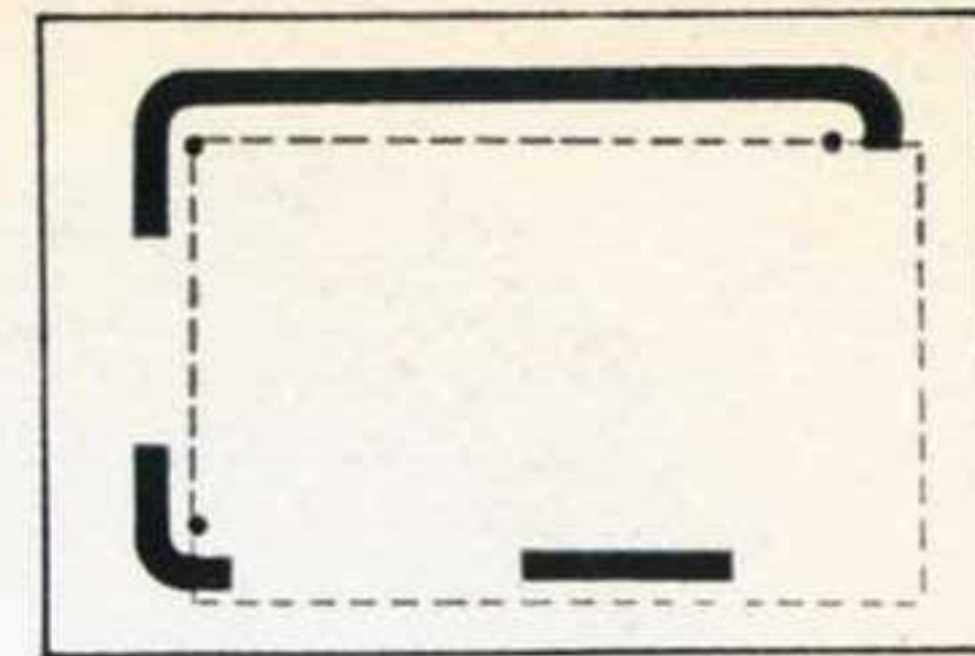
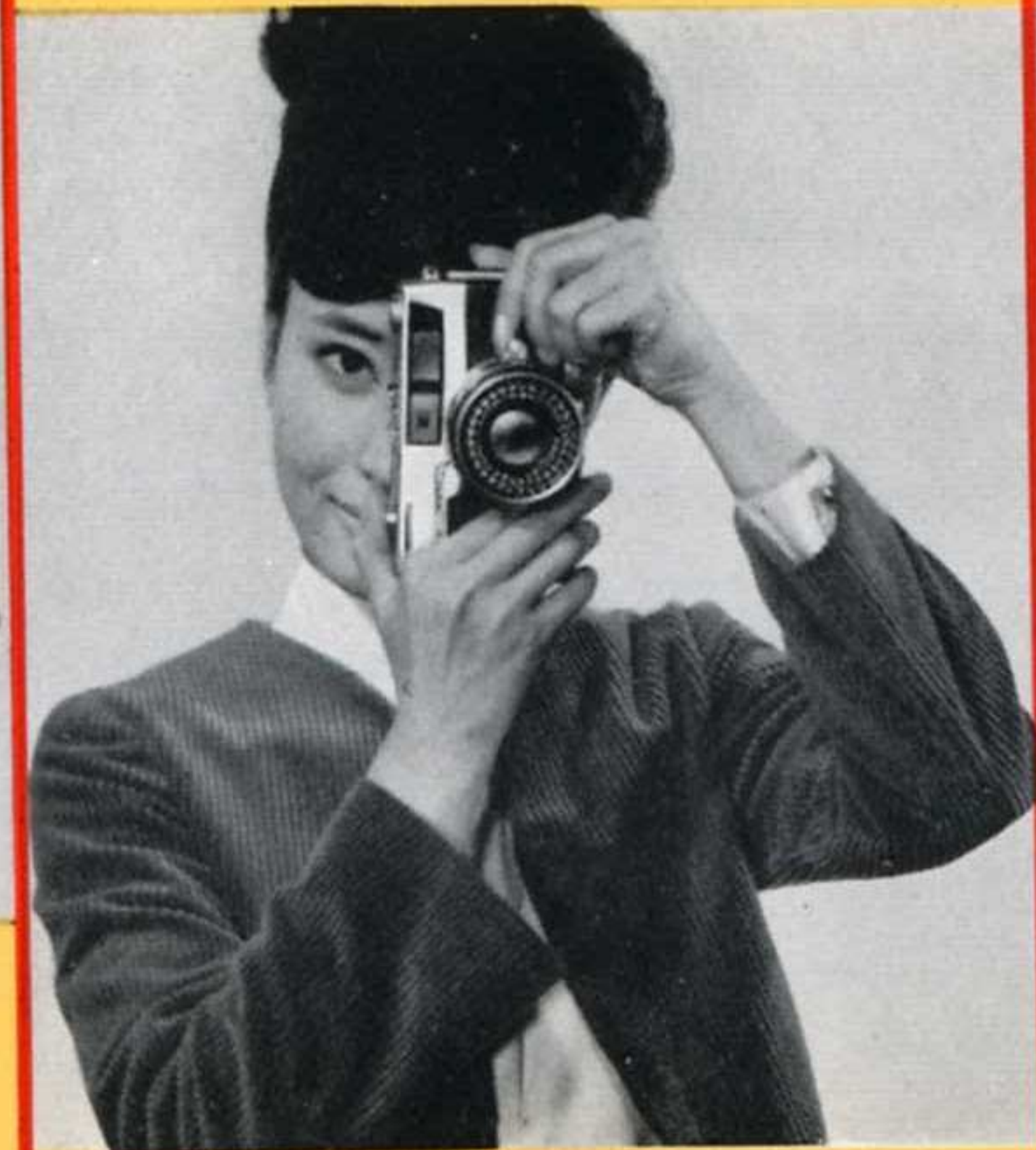
- ①適正露出をきめる。
- ②ピントを合わせる。
- ③ブライツフレームで構図を決定。
- ④シャッターを切る。

という順序で撮影が行われますが、最後のシャッターを切る瞬間に、カメラが動いてはなんにもなりません。そこで正しく構えてカメラぶれをしないことが非常に大切になります。

■カメラは両手でしっかり持ち、カメラの背部を鼻やヒタイにぴったりつけて構えます。要は安定です。

■シャッターボタンは人差指の腹で静かに押し下げます。

■連続撮影を行う場合は構えた態勢のまま巻上げレバーを操作します。



ファインダーの のぞき方

明るいフレームの枠内が実際に写る範囲です。ただし至近距離では枠内に見える点の位置まで実画面がズレますから、上図の点線の範囲を標準に構図をきめてください。



シンクロフラッシュ撮影

暗い所で速いシャッターを使い、明るく写し止めたい場合には、閃光電球の発光とシャッターの開口を同調させていわゆるシンクロフラッシュ撮影をすることができます。

■用意するものはフラッシュガン（発光器）と閃光電球です。まずフラッシュガンのコードの先端のソケットをシンクロターミナルに接続し、閃光電球をフラッシュガンに取付けてシャッターを切れば、閃光電球が同調して発光し、明るい写真が写せます。（フラッシュガンはあらかじめアクセサリシューに取付けておきます。）

■ここで使う閃光電球はM級またはF級という種類で、M級使用のときはシンクロMX接点切替レバーをM側に、F級またはストロボ使用のときはX側に倒します。

■もちろん露出計は使えません。シャッター速度は右の同調表により、絞りは閃光電球の明るさと撮影距離によってきめます。

フラッシュ同調表

閃光電球の種類	M接点	X接点
M 級	全速度同調	$\frac{1}{30}$ 秒まで 同 調
F 級	_____	$\frac{1}{60}$ 秒まで 同 調
ストロボ	_____	全 速 度 同 調

セルフタイマーの使い方

セルフタイマーレバーを止まるところまで引いてセットし、リリースボタンを押せば約8秒後にシャッターが切れます。このセットはフィルムを巻上げる前でも後でもかまいません。

セルフタイマー使用上の注意点としては、

- ①セルフタイマーは各速度に使えますが、B（バルブ）には使えません。
- ②セルフタイマーの作動時間を短かくしたいときは、止まるところまで引かずに途中位置までにしておけば可能です。
- ③シンクロ撮影時にセルフタイマーを使うには、シンクロMX接点切替レバーを必ずX接点に合わせた上で撮影してください。
- ④シンクロ撮影時以外は、MX接点切替レバーをどちらに合わせておいても、セルフタイマーの作動になんら支障ありません。

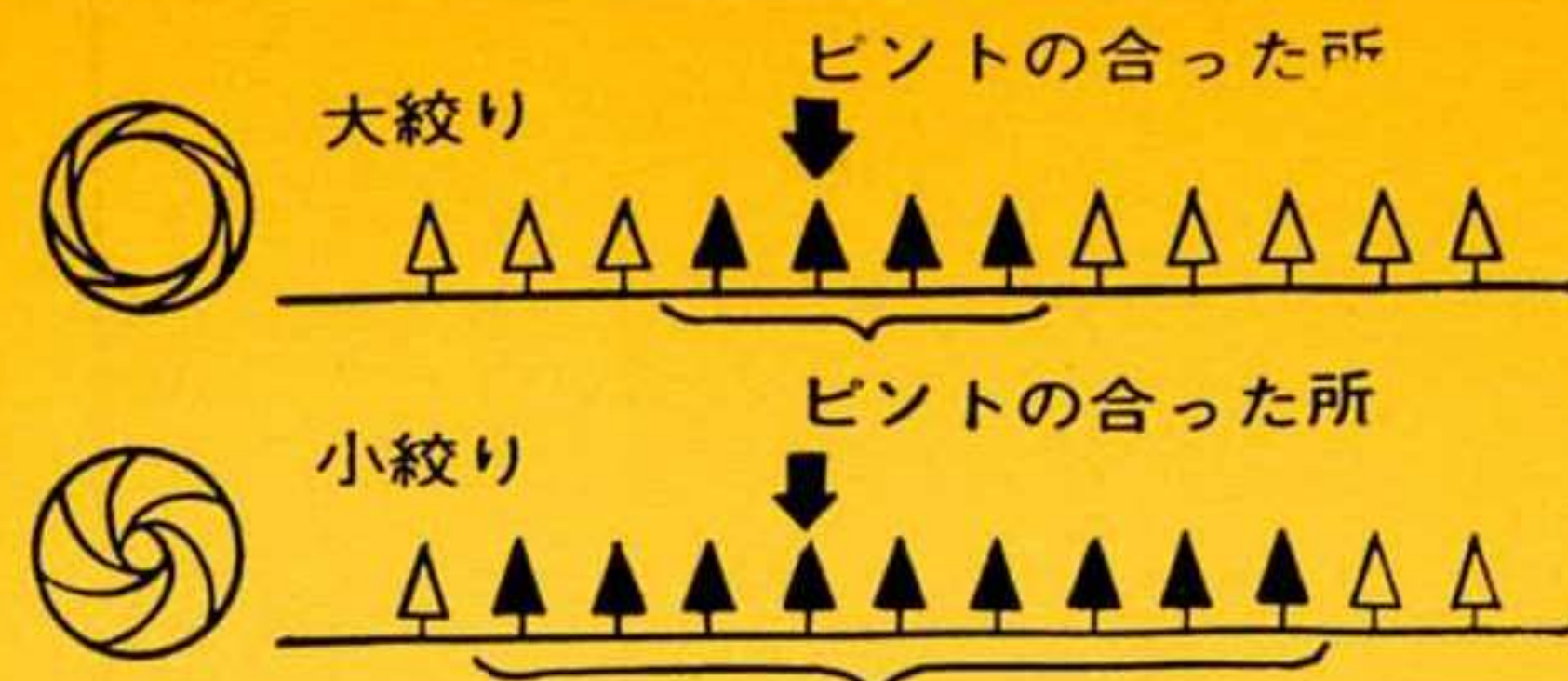
被写界深度について

ある1点にピントを合わせたとき、その前後に実用上シャープに写る範囲があります。これを被写界深度といいます。

被写界深度は絞りを小さく絞る程深くなります。また同じ絞りでも撮影距離が遠くなる程深くなります。

■この性質を作画に利用して、奥行きが深い被写体を全部シャープに写すために小絞りをを用いるとか、ポートレートなどでわざとバックをぼかすために大絞りをを用いる、といった技法が使われます。

■各絞り、各距離において、鮮明に写る範囲を具体的に数字で示したのが、次ページ



の被写界深度表です。これを作画上の効果と結びつけてご利用ください。

■被写界深度を考えながら露出をきめるときには、当然絞りを先にきめ、それに応じたシャッター速度をえらぶこととなります。そこで前掲の連動露出計の使い方も、あらかじめ希望の絞りをセットし、シャッター速度リングを回しながら指針を合わせる、といった順序をとることになります。ところが、シャッター速度は中間目盛が使えませんが、一たん指針を合わせたら一番近い速度目盛のクリック位置までズラし、あとは絞り目盛で微調整する必要があります。

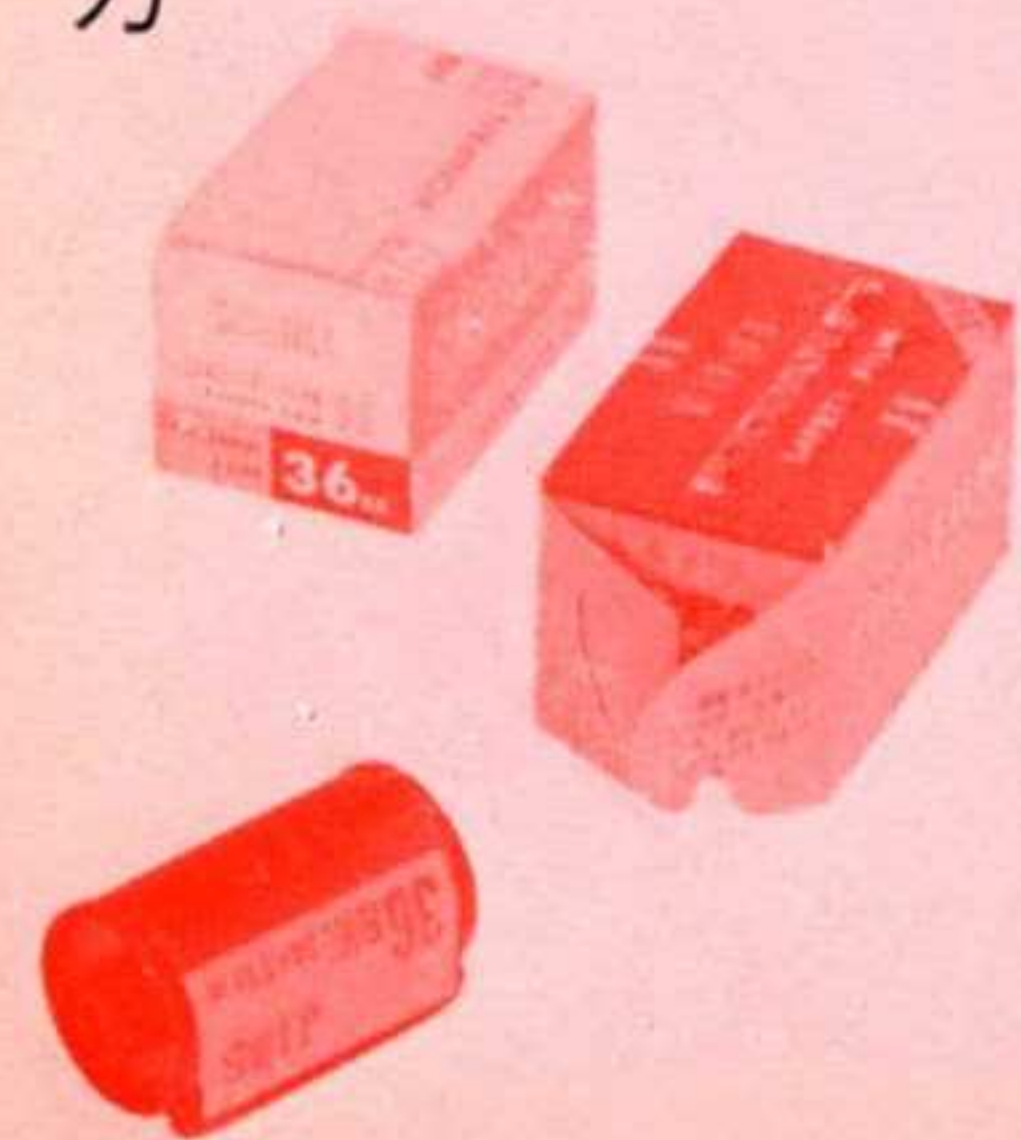
ペトリセブンS用 ペトリF1.8 45mm被写界深度表

(フィート)

(メートル)

FNo.	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
2.75	2.69 2.82	2.65 2.86	2.61 2.91	2.56 2.97	2.48 3.08	2.40 3.23	2.26 3.50
3	2.92 3.08	2.88 3.13	2.83 3.19	2.77 3.27	2.69 3.40	2.58 3.58	2.46 3.92
4	3.86 4.15	3.79 4.24	3.71 4.35	3.60 4.50	3.45 4.76	3.28 5.12	3.04 5.86
5	4.78 5.24	4.67 5.38	4.55 5.56	4.39 5.82	4.17 6.25	3.92 6.90	3.57 8.34
6	5.69 6.34	5.53 6.55	5.35 6.82	5.13 7.22	4.88 7.90	4.50 8.98	4.05 11.61
8	7.46 8.63	7.19 9.02	6.89 9.55	6.52 10.35	6.04 11.84	5.53 14.43	4.85 22.74
12	10.81 13.48	10.25 14.48	9.64 15.89	8.94 18.25	8.06 23.50	7.17 36.66	6.09 ∞
30	23.50 41.53	20.96 52.83	18.57 78.30	16.11 218.72	13.44 ∞	11.14 ∞	8.66 ∞
∞	107.57 ∞	69.22 ∞	48.46 ∞	34.60 ∞	24.21 ∞	17.61 ∞	13.00 ∞

FNo.	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
0.8	0.78 0.82	0.77 0.83	0.76 0.84	0.75 0.86	0.73 0.89	0.70 0.93	0.66 1.01
0.9	0.88 0.92	0.87 0.94	0.85 0.96	0.83 0.98	0.88 1.09	0.78 1.07	0.73 1.17
1	0.97 1.03	0.96 1.05	0.93 1.07	0.91 1.10	0.89 1.15	0.85 1.22	0.80 1.35
1.2	1.16 1.24	1.14 1.27	1.11 1.30	1.08 1.35	1.04 1.42	0.99 1.53	0.91 1.75
1.5	1.44 1.57	1.40 1.61	1.37 1.66	1.32 1.74	1.25 1.87	1.18 2.06	1.08 2.48
2	1.89 2.13	1.83 2.20	1.77 2.31	1.69 2.46	1.58 2.72	1.47 3.15	1.31 4.25
3	2.75 3.29	2.63 3.48	2.50 3.75	2.34 4.16	2.14 5.00	1.93 6.67	1.67 15.04
5	4.34 5.89	4.05 6.54	3.74 7.52	3.40 9.43	2.99 15.19	2.60 64.52	2.13 ∞
10	7.68 14.35	6.79 18.94	5.97 30.68	5.14 ∞	4.26 ∞	3.50 ∞	2.71 ∞
∞	32.79 ∞	21.10 ∞	14.77 ∞	10.55 ∞	7.38 ∞	5.37 ∞	3.69 ∞

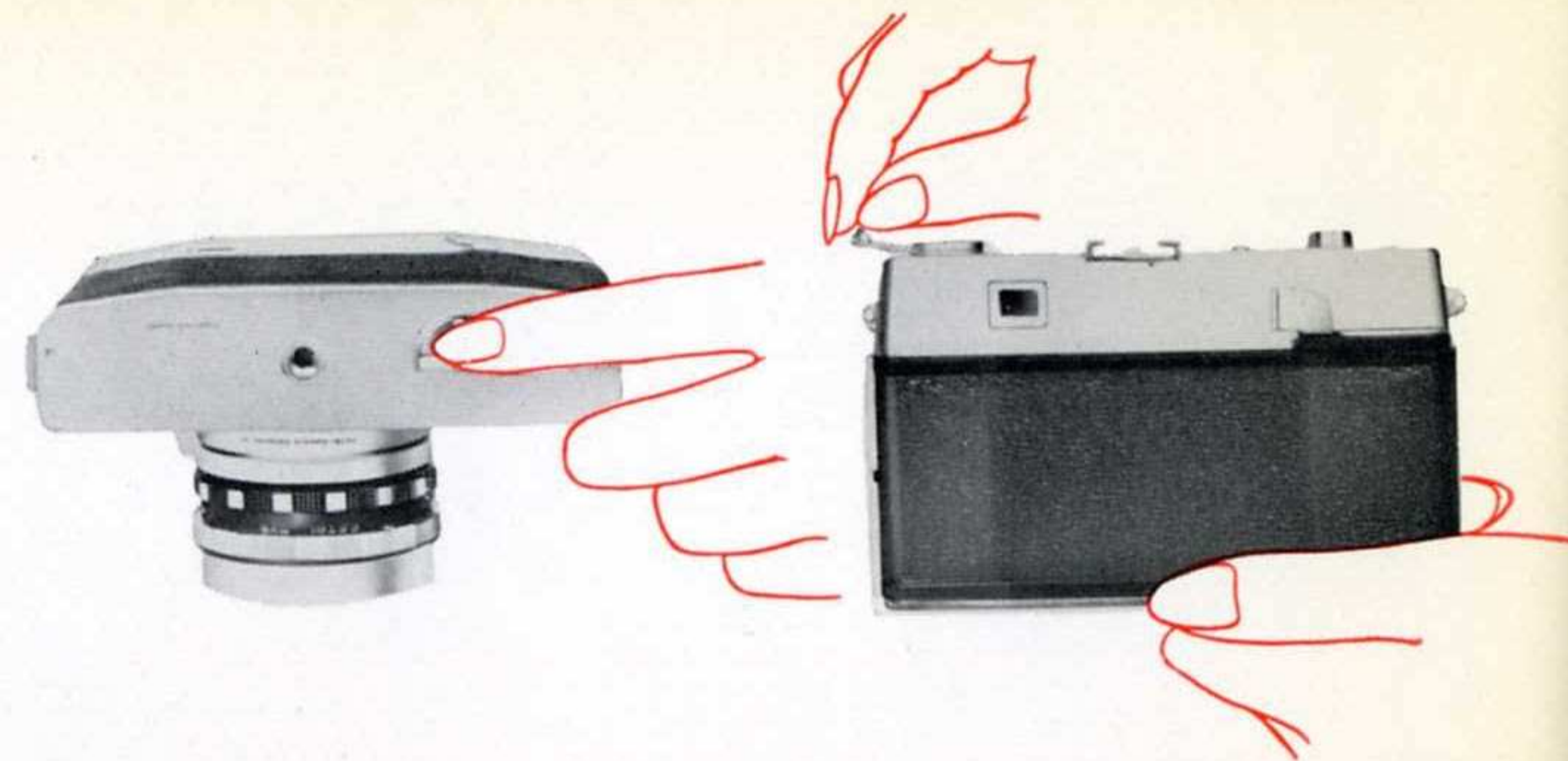


リターンボタンを押す

フィルムを全部撮影し終わったらもとのパトローネに巻き戻さなければなりません。まず、カメラ底部にあるリターンボタンを押します。

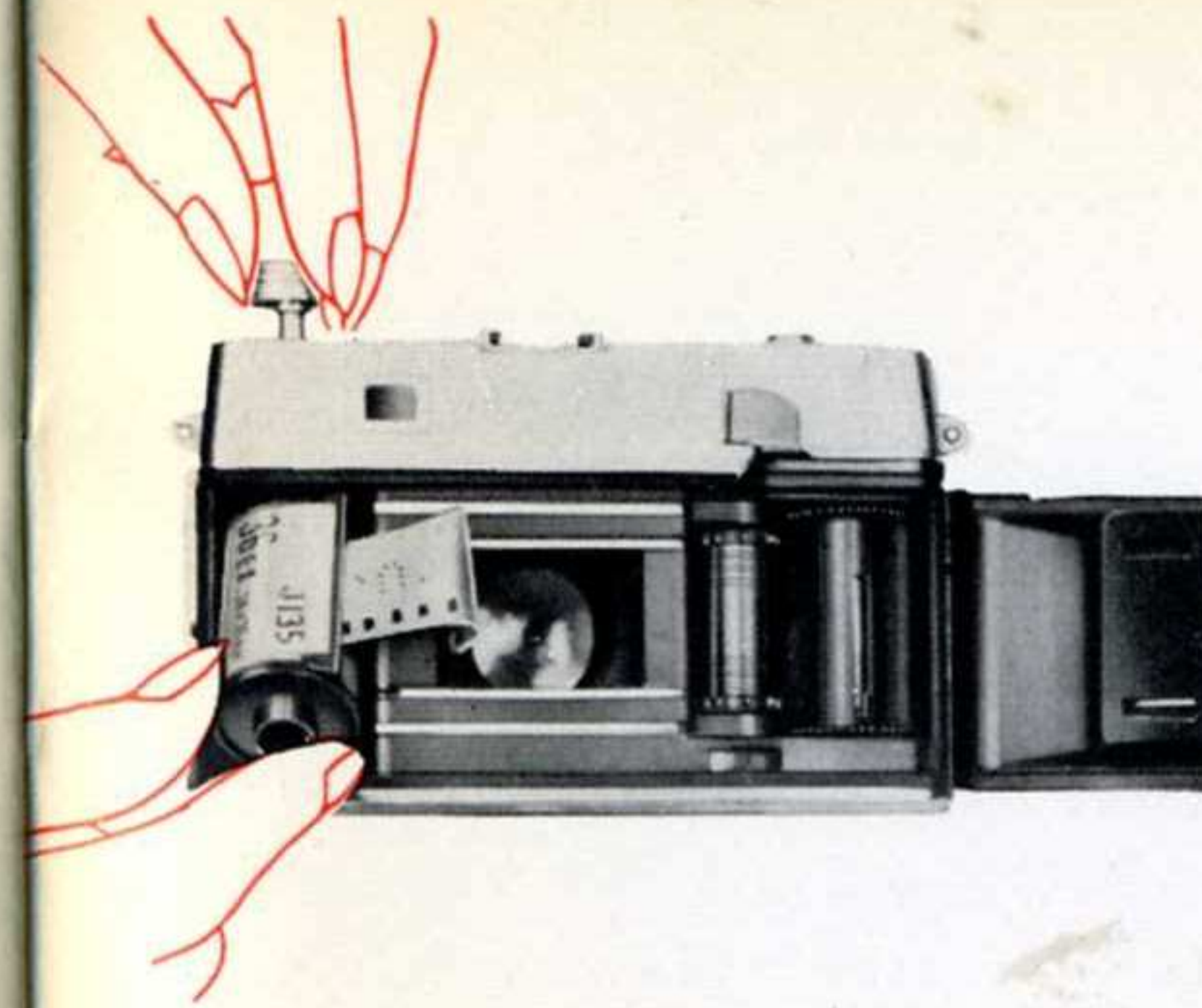
巻戻しクランクを起こして回す

リターンボタンを押したまま、巻戻しクランクを起こして矢印の方向に回します。これでフィルムがパトローネに巻き戻されてゆきます。



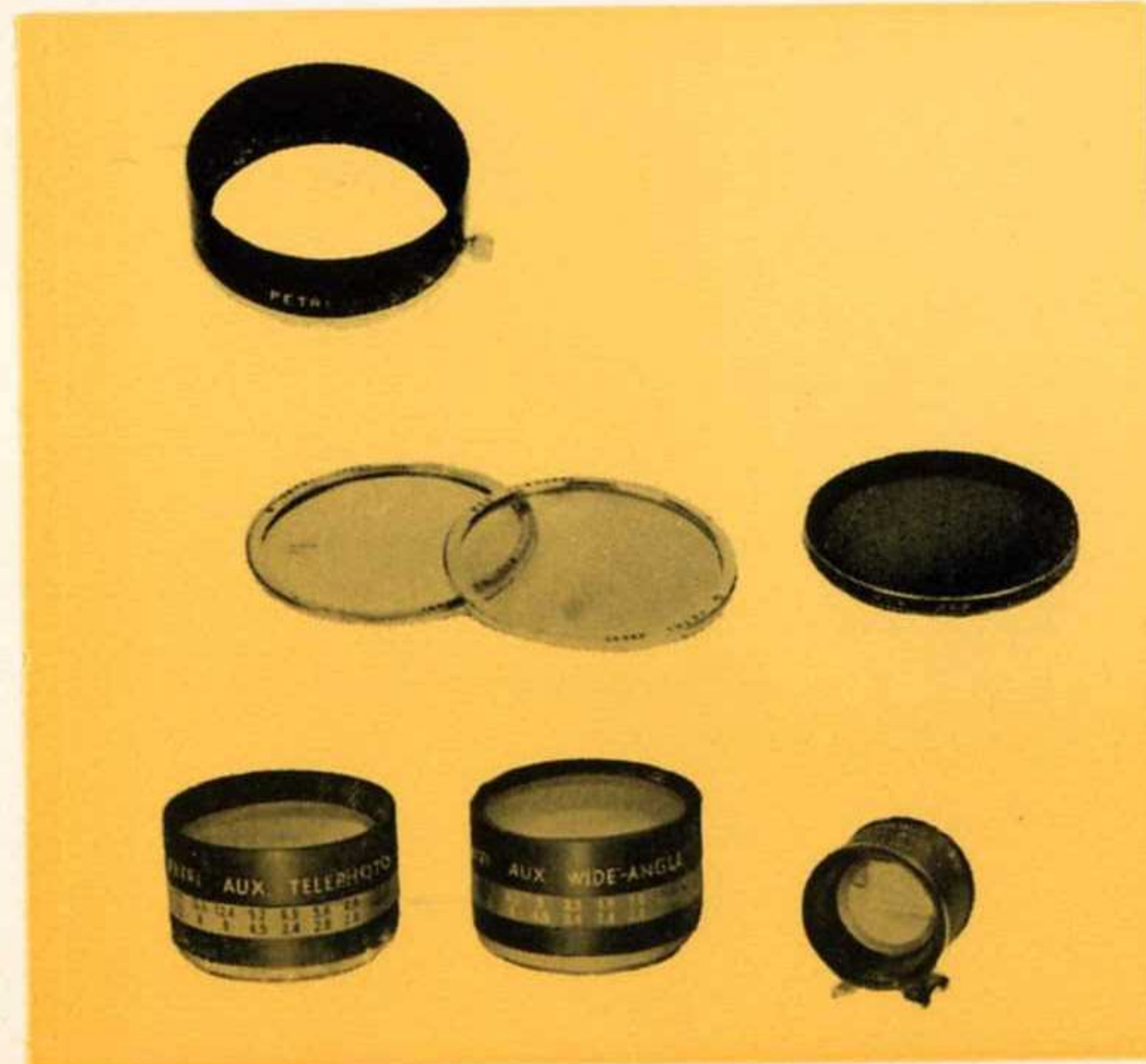
フィルムを取り出す

巻戻しの手ごたえが急に軽くなったら、完全に巻き戻されたと判断されますから、裏蓋を開き、巻戻しクランクを引き出して、フィルムを取り出します。



フィルム巻戻し上のご注意

- フィルムを出すときも、直射日光下をさげ、日陰で行ってください。
- フィルムが完全にパトローネに巻戻せたかどうか不安なときは、フィルム巻上げレバーを操作してみてください。巻戻しクランクが矢印と逆方向に回らなければ、完全に巻き戻せたと判断されます。
- 写し終ったフィルムは、なるべく早目に現像をしてしまいましょう。そのまま放置しておくと、カブリを生じたり、いろいろな故障の原因となります。
- 巻き戻しの際、フィルムの先端までパトローネに巻きこんでしまうと、空のパトローネと区別がつかなくなることがあります。できれば先端を多少残しておいて、撮影終了のマークをつけておきますと間違えるおそれがありません。



ペトリフード

丸型、止ネジ式の専用レンズフードは、内面反射防止が完ぺきで、あらゆる乱反射を防ぎますから、逆光撮影ばかりでなくどんな撮影にも常用することをおすすめします。止ネジ式ですから落すおそれもありません。美しい皮ケースに納められています。

ペトリフィルター

ネジ込式金属枠付ペトリフィルターは吸収が完全ですから、整色用、強調用として作画上に大きな効果をもたらします。

UV・紫外線カット用

Y1・淡黄色で戸外人物を自然な感じに写します。

Y2・黄色系で風景などを自然に写します。

- YA3・遠景のコントラストをつけるなど強調用として使われる橙色フィルター。
- R1・赤外、航空撮影などに使われる強調用赤色フィルター。
- PO1・緑色系で女性のヒフなどを美しく描写します。
- NDX4・感色性に関係なく露出倍数が4倍かかるグレーのフィルター。
- カラー用・W4（温調用）C4（冷調用）
C8（フラッシュ用）C12（写真電球用）

ペトリAUXレンズ

レンズの前面に取付けて、望遠および広角の効果をあげる補助レンズです。望遠用、広角用、兼用ファインダーがセットとして発売されております。

ペトリセブンSのサークルアイ機構とフィルターの露出倍数

ペトリセブンSの露出計受光部はサークルアイ式になっていきますから、フィルターの露出倍数については、なんら考慮する必要がなく、ノーフィルターの場合と同じ操作で適正露出が得られます。

**大口径レンズの味を生かす
NDX4フィルター**

明るい所では絞りを小さく絞るのは当然ですが、折角の大口径レンズなので絞りを開放にしてバックをぼかし、味わいのあるポートレートを書きたい、という要求もでてくると思います。といってF2開放では $\frac{1}{500}$ 秒でも露出過度になる場合が多く、濃い色のフィルターを使えばどぎつくなってしまう。こんな場合NDX4を用いれば、大口径の味を生かして美しい写真が得られます。